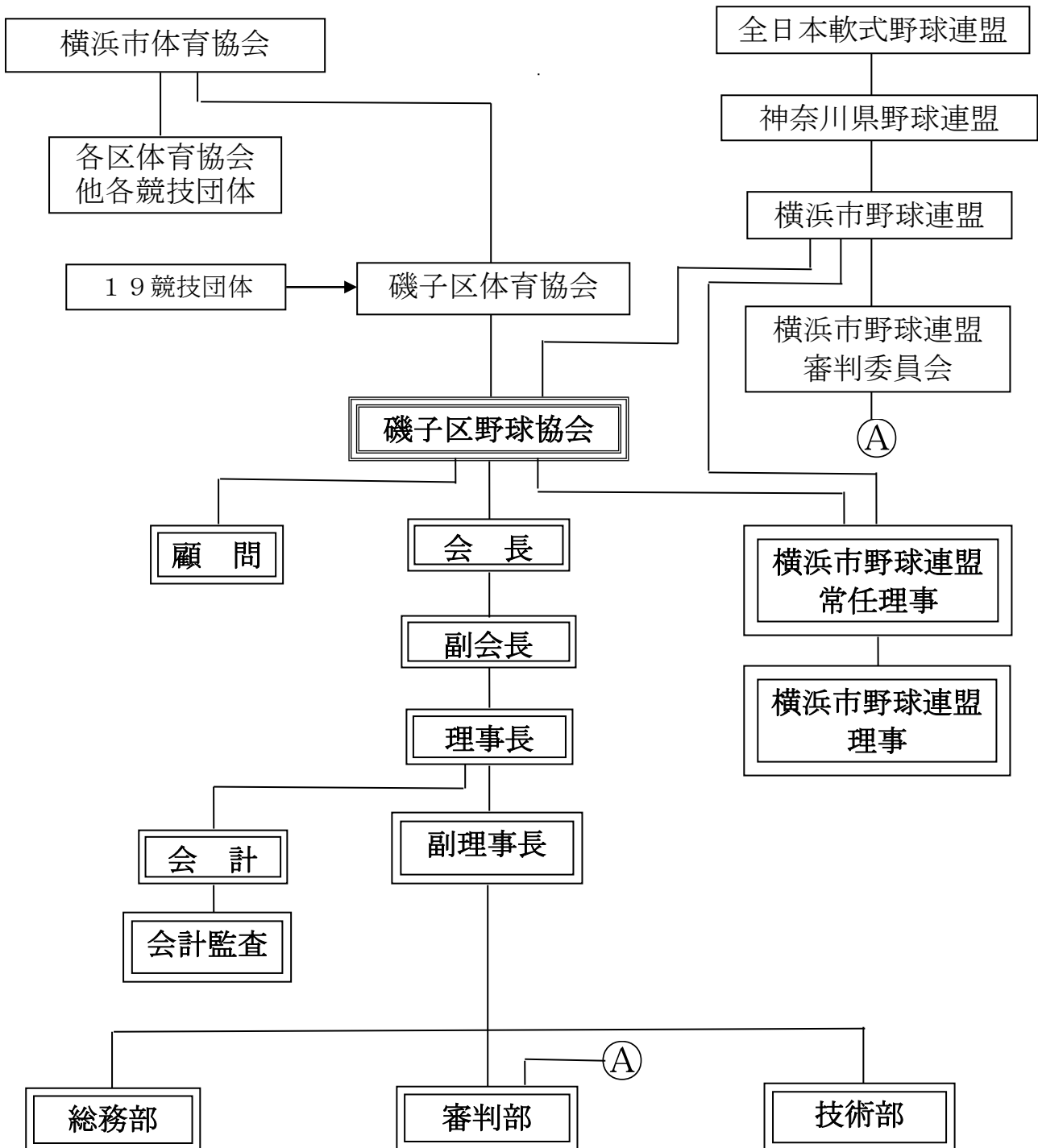




磯子区野球協会の概要

1. 組織図

磯子区野球協会組織図



磯子区野球協会

役員簿



会長	関 勝則
副会長	村越英太郎
理事長	山下 昭
審判長	鎌田 哲夫
総務部長	斎田 昌仁
会計部長	中村 育男
技術部長	蒲谷 金次



3. 磯子区野球協会の歴史

昭和20年終戦後ようやく世の中が落ち着きだし、野球好きの日本人は全国でプロ野球、学生野球等の野球大会が復活を始めました。日本人は昔から野球好きで学生野球を中心に各種の大会が復活してきましたが、やはり自分で野球やりたい人が増え焼け野原、学校の校庭等草野球を楽しむ人が増えてきました。

この様な状況で我が磯子区でも野球チームを作り草野球を楽しむ人が増え磯子区内各地で個別の大会を組み試合を行っていましたが、磯子各地区代表者が集まり磯子区統一大会を開催しようと意見が纏まり、晴れて磯子区役所協力の基に昭和26年第一回磯子区民野球大会を開催できたのです。



これが磯子区野球協会発足の原点となっています。

以来65年間春・秋2シーズンに亘り一度も欠かすことなく磯子区民野球大会が開催されています。

以上が磯子区野球協会ルーツとなりますが、その後磯子区は戦前から国道16号線に沿って市電が走りそのすぐ近くは本牧～根岸～八幡橋～磯子駅～屏風ヶ浦～杉田に至る部分は総て海岸沿いで夏は横浜では優秀な海水浴場で保養地としても有名でした。

その後昭和30年代に入り根岸湾の埋立、汐見台団地の造成、根岸線の開通、石油コンビナートの建設、造船所の建設等大手企業、中小企業の建設等があり人口が増え野球も企業チーム、団地チーム等が参戦し役260チームの参加を数えたのである。

しかし、高度成長を終え企業の収益が減り少子高齢に伴い企業チームの撤退、団地チームの減少が続き現在は約80チームと現象となっています。

その中で野球は面白いスポーツで技術面も大切ですがチームワークが第一で最後に勝利するのはこのチームワークが良いチームが勝利します。

今日本は東日本大震災で未曾有の震災に会い、又日本各地で地震、火山噴火、天候不順による水害等沢山の危機を迎えています。

過去日本は古くは関東大震災、第二次戦争の敗戦で大きな試練を迎えこれを乗り越えて来たのは島国である日本の風土である日本人特有の絆があるのです。

過去の危機を乗り越えて発展を遂げているのです。

皆さんは小学生、中学生の時横浜市歌を歌ったこと、聞いた事があると思いますが最初の歌い出しは“この日の元の国は島国よ”で始まります。

とてもこの歌はまさに日本を表すとても良い歌です。

この様に日本人特有の忍耐力、絆を持つ日本人の心に繋がるスポーツとしてはいち早く戦後復活して国民的スポーツとして愛されてきたのは野球です。

今後は私共磯子区野球協会はこの精神を受け継ぎ役員、審判員共に、又小学生を中心として野球の発展を志す「磯子区少年野球連盟」の皆さんと共に磯子区の野球発展に尽力したいと決意しています。

又、野球を通じ大変微力ですが地域の皆さんの発展と体力向上に少しでも貢献出来ることを信じてボランティア活動でありますすががんばって行く所存であります。

以上